

種名称（学名）	セイヨウアブラナ Brassica napous									参考文献：田んぼの草花指標（農と自然の研究所ほか）											
分布	全国																				
日本名	西洋油菜																				
主な地方名	菜の花、アブラナ																				
中国名																					
本種写真	生息環境写真	指標に挙げた理由	主な生育場所	大きさ	観察のポイント	類似種	見分け方	生態的な特徴	生活史 関東地方の例(目安)												
		指標区分：Ⅰ（１０）Ⅲ（３）Ⅳ（７）Ⅴ（３）（５） 明治以降、油糧作物として栽培。最近ではバイオディーゼルの原料としても注目。また景観植物としても利用される。	非灌漑基の水田・畦畔・路傍・河川草地	50-100 c m 種子・繁殖体の大きさ：（mm）	葉や茎葉白っぽく、1m以上と丈が高く、大きな4弁花をつける。	セイヨウカラシナ	セイヨウカラシナは、茎が上方の葉が基部で幅狭く、葉柄があり葉は茎を抱かない。	セイヨウカラシナとともに、河川敷や路傍などにも生育。種子には40％以上の油が含まれる。 【繁殖形態】種子繁殖。とくに散布のための仕組みはなく、種子は親株の周辺に落下。【越冬形態】ロゼット葉で越冬。盛夏は種子が土壌中ですごす。	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 生育期 開花・結実期 1年あたり 越冬1 世代												
		農業との関係	最近の動向	つきあい方	食用部位と調理法	薬用部位と効用	一言うんちく	季節と句													
		畦畔だけでなく、裏作水田に生えることがある。【許容範囲密度の目安と発生量の調査方法】水田で問題となることはない。単位面積当たりの発生本数計測や被度調査で発生量を把握。	栽培は増えている。それに伴い、逸出も増加。	明治11年に導入され、油の採集や養蜂の密源を目的に全国で栽培されている。さまざまに役に立つ草であり、もっと利用価値を見つけてほしい。	咲きだした花茎を摘み、さっと茹でしょうゆ1.だし汁2の割合で合わせてお浸しに。	ナタネ油は食用のほかに、軟膏の材料にもなる。	アブラナやダイコン、ナズナの仲間は、花びらが4枚で、十字型に見えるもので、'十字花'とも呼ばれる。	【菜の花：春】しろたへのわが鶏（かけ）にやる春の日の餌（ゑ）には交われり菜の花の黄も（岡本かの子） 菜の花や月は東に日は西に（蕪村） 菜の花の中をあ様のけぶり哉（一茶） 【菜種打つ・菜種干す：夏】菜種打つ向ひ合わせや夫婦同志（夏目漱石） 菜種ほすむし													